Yamato Welfare Foundation
ヤマト福祉財団

NEWS

ヤマトグループ賛助会員向け
ニュース（季刊）
発行部数14万部・非売品

2023.10.20 Autumn

No. 80

人は自立して生活することで幸せを感じられる

障がい者の働く場 パワーアップフォーラム

2023年度テーマ「インクルーシブに働きたい」を実現しよう

おしごと発見フェア 2023

「会って、相談して、体験できる!」ワンストップ型イベント、2年目の開催!

奨学生レポート Vol.14
持田温紀さん　中央大学法学部政治学科4年
ボールが蹴れなくても12人目のプレーヤー

助成先レポートVol.46
NPO法人クラシーズ わくわくファーム きらり（富山県中新川郡立山町）
通年できる水耕ハウス栽培で、彼らの暮らしの質を高めていく

リレーコラム
夢をつないで
第28回

NPO法人アクションポート横浜
代表理事　高城 芳之

Profile
1982年生まれ。大学時代から「若者と地域をつなぐ場づくり」をテーマに活動をはじめ、新卒でNPOの世界に飛び込む。2010年からアクションポート横浜事務局長、2018年より現職。2代目の代表理事。大学生のボランティアマネジメントをはじめ、企業のCSR相談事業、プロボノ支援事業などを担当。複数のNPOの理事や大学の非常勤講師なども兼務。

若者の想いを引き出し、地域の現場へとつなぐ

学生時代、大学祭のご縁から中学校の個別支援学級でのボランティアを始めた僕は地域に学生が少ないという声を聞いて、両者をつなぐ交流会を始めました。

交流会では学生と団体の双方に協働のニーズはありましたが、活動文化や意識のギャップにより大苦戦。出会いやつながりを作るには専門的なコーディネートが必要だと強く感じ、新卒でNPOの世界に飛び込んだのです。

様々な統計によると、学生の社会参画ニーズは増加する一方で、きっかけが少なく「活動したいができてない」潜在的関心層は学生の4～5割と言われています。

この状況を課題視した当法人は2008年から学生が地域に関わる場作りを主導してきました。

その一つが2021年度からヤマト福祉財団の支援により始まったヤマト繋がるプロジェクト。全国のヤマト運輸社員と学生が一緒に福祉施設の声をもとに企画を考え、障がいのある子どもとともに笑顔を作るボランティア活動です。これまで工作やアート、ボッチャなどの企画を実現してきました。

関わる若者の多くはこれまで福祉に縁のなかった学生や若手社員。面白そう、友達に誘われたという動機で参加した若者が、施設への訪問や子どもとの会話を通じて、福祉への関心を持つようになってきます。

企画後も福祉活動を継続したり、施設への就職も考えたりする学生も増え、施設にとっても視野を広げる機会となりました。

若者が主体的に関わる場を地域に作り、関係性を育むこと。協働の場のコーディネートにより福祉の扉を開くきっかけを作れたことはプロジェクトの成果と言えるでしょう。

これからの地域、福祉の世界ではますます担い手が重要になります。担い手不足の課題はよく耳にしますが、持続可能な地域を育てるためには、その枠組みに若い世代を当てはめ「消費」させるのではなく、彼らの主体性を引き出して地域ニーズとつなげるためのコーディネーションが必要ではないでしょうか。

これからも若い世代を中心に、多くの人を地域・福祉の世界へ、そして未来へとつないでいきたいと思います。

CONTENTS

表紙写真　9月12日に開催された「障がい者の働く場パワーアップフォーラム（福井会場）」。福井県あわら市のピアファームの会場からオープニングの1コマ

03 人は自立して生活することで幸せを感じられる
障がい者の働く場パワーアップフォーラム
2023年度テーマ
「インクルーシブに働きたい」を実現しよう

08 おしごと発見フェア 2023
「会って、相談して、体験できる！」
ワンストップ型イベント、2年目の開催！

12 奨学生レポート Vol.14
持田温紀さん　中央大学法学部政治学科4年
ボールが蹴れなくても12人目のプレーヤー

14 助成先レポートVol.46
NPO法人クラシーズ わくわくファーム きらり（富山県中新川郡立山町）
通年できる水耕ハウス栽培で、彼らの暮らしの質を高めていく

16 農福連携実践塾
すべては高工賃のために

17 スワン工舎卒業生訪問38　株式会社 精興社 さま
厚くて重い紙が来たって、期待に応えて頑張ります！

18 2023年度
ヤマト福祉財団奨学金贈呈式を行いました

日本障害フォーラムが推進するイエローリボン運動に賛同しています。

2023年度

障がい者の働く場 パワーアップフォーラム

「人は自立して生活することで幸せを感じられる」

9月1日 東京会場　東京都立産業貿易センター浜松町館

9月12日 福井会場　波松ステイ・なみまちCAFE

9月20日 福岡会場　八女市民会館 おりなす八女

本年度のパワーアップフォーラムは、9月1日の東京会場では、会場でのリアル開催およびYouTubeを通じたライブ配信によるハイブリッド形式で、9月12日の福井会場と9月20日の福岡会場では現地からお届けするオンライン形式で開催し、多くの方に参加いただきました。

国連からの通知簿は「日本社会へのイエローカード」

開催にあたり山内理事長は「大切なのは〝インクルーシブに働きたい〟と願う利用者さんの声にどう応えていくかです」と挨拶。「今日は、講演者のお話などから障がいのある方の現状や実践的な支援のあり方を一緒に学び、明日への元気を持ち帰ってください」と呼びかけました。

（NPO）日本障害者協議会の藤井克徳代表には、障害者権利条約と会場ごとのテーマで講演いただいています。

「2022年、日本政府の権利条約への取り組みに対する国連からの通知簿（総括所見）には〝当事者を置き去りにした父権主義的な対応となっている〟と書かれています。これは、障がいのある方だけでなく、いまの日本社会全体へのイエローカードです」と解説しました。

さらにヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者や全国の福祉施設の代表者が、働く場の拡大から支援方法まで具体的な取り組みを報告。シンポジウムでは、来場者・視聴者からの質問にも答え、有益な時間を共有できました。

山内理事長

（NPO）日本障害者協議会　藤井克徳代表

「インクルーシブに働きたい」を実現しよう

東京都立産業貿易センター浜松町館のリアル会場には約60名が来場。同時配信したYouTubeには、約100名の方に視聴いただきました。

東京会場

9月1日(金)

特別講演

なんの隔たりもない社会を「共に働く」就労支援の意味を問い、共に考える ～ソーシャルファームの取り組み経過から～

東京家政大学　名誉教授
(社福)豊芯会　顧問
上野 容子 さん

精神に障がいのある方たちが当たり前に暮らせる社会へ

1970年代、私は精神科病院のソーシャルワーカーとして働いていました。当時は「治療＝入院」であり、病状が安定しても簡単に退院できません。その理由は、ご家族にも疎んじられた患者さんが、地域での生活を自ら諦めてしまっていたからです。

そんな現実を知った私は、豊島区の患者さんのご家族と豊芯会を設立。精神に障がいのある方の仕事、雇用する企業などの拡大に努めています。さらに患者さんたちの就労指導者を育成するため、大学で教鞭をとるようになりました。

より多様な働く機会と喜びを当事者と一緒に創出したい

ソーシャルインクルージョンとは「だれもが共に暮らし、共に活動し、共に働くことができる社会」。しかし、未だに精神障がいのある方は、生産性と利益優先の労働から排除されています。

そこで私が推進しているのが「ソーシャルファーム」です。現在、行政もソーシャルファーム認証制度を整えるなど、応援してくれています。ファームと言っても、業態は食品製造やカフェ運営など自由です。大切なのは当事者たちの能力・希望とマッチングできる多様性を持つこと。そして当事者が、主体的に経営や事業に一緒に取り組み、成立させていくことです。

経営コーディネータとも協力し合い、より高い給料支給を目指していく。そんな活動を全国に広げていきたいと考えています。

小倉昌男賞受賞者講演

「なぜ高工賃を目指してきたのか」～その先に見えてきたこと～

（社福）パレット・ミル
常務理事
中山 みち代 さん

各自の個性・色に合う仕事を選び支援していく

滋賀県栗東市にある「パレット・ミル」では、さまざまな障がいのある方が自立を目指して働いています。パレットは、流通業などフォークリフトでものを運ぶ際に載せる台、ミルは製造工場です。そしてこの名には「みんながいろんな色を持ち寄り、夢を描いていこう」そんな思いも込めています。

そこで私たちは「より高い給料と自分に合う仕事」を選べるようにしていきました。現在、樹脂パレットのリユース、発泡スチロールの減容、木工、製菓、施設外就労などの仕事も広げています。

給料とともに自己肯定感も高まり、さらに上を目指す

私たちが目指すのは「障がい者だからと言われない高い品質」「より効率的で働きやすい環境」「適材適所で力を発揮できる支援」「最低賃金の保障」などです。

現在、月額平均給料は7万円を超えています。給料は生活の糧だけでありません。「自分が認められた、評価された」そんな自己肯定感を得ることで、仕事への意欲もより高まっていきます。そんな利用者さんの成長していく姿に鼓舞されて、私たちも支援のあり方をさらに工夫しているのです。

コロナ禍で仕事が激減し、大変な時期が続いていますが、各企業にお声がけいただき、給料を減らさずに頑張れています。改めて、だれもがお互いに必要とし合うインクルーシブな社会、働き方の大切さを噛み締めているところです。

会場ではあまみんのジェラート（16種類）が配られました。

シンポジウム

共通テーマは「インクルーシブに働きたい」を実現しよう

インクルーシブに働くとは？各人の視点で深掘りする

シンポジウムでは、コーディネータの藤井さんが「インクルーシブに働きたいを実現しよう」をキーワードに、各会場ごとのテーマに沿ったいくつかの質問を投げかけました。
「障がいの有無など関係なく子供たちが一緒に学ぶ環境をつくることが、インクルーシブな社会を創る礎になる」。
「障がい者が社会に必要とされる仕事に就けば、地域の理解も深まり、共に働き暮らす環境づくりにつながるはず」。
「その点、農福連携は、まさに適した方法だと言える」。
「職員は支援に徹し、利用者さん主体の仕事の進め方へ」。
「それが実現できれば、意欲も増し、毎日気持ちよく仕事ができ、給料も増えていく」。
「やりがい、目標を持って働き、地域のなかで自立して暮らしていける体制を築こう」。
「それには、支援員だけではなく、経営者としての視点と工夫が必要」。
シンポジストたちの意見を聞いた藤井さんは「本来、働くとは楽しいものです。もっと自由に各人の個性を伸ばせる仕事づくりと支援を行いながら、いまの私たちにできるインクルーシブな取り組みも同時に進めていきましょう」と呼びかけました。
山内理事長も「みんなが一緒に働き幸せになっていける、そんな社会をつくっていきましょう。ヤマト福祉財団もお手伝いしていきます」と伝えました。

福岡会場

実践報告1　仲間と共に創出するインクルーシブな社会

（NPO）カムイ大雪 バリアフリー研究所
チーム紅蓮 施設長
五十嵐 真幸 さん

私は骨形成不全症で、幼いときからずっと車椅子生活です。でも普通にみんなと同じ学校に通い「自分が障がい者だ」ということを忘れていました。ところが就活を始め、車椅子と書くだけで書類選考に落とされる、そんな現実に直面します。社会は私たちのことを知ろうともせず偏見を持っている。それを払拭したくて仲間とNPOを立ち上げました。いまは、私たちの視点でだれにも優しい町づくりや故郷・旭川の観光イベントなどを企画。地域に必要とされるさまざまな仕事を自ら創出し、インクルーシブな社会実現を目指しています。

実践報告2　尽きないチャレンジ・これからの夢 ～奄美大島での農福連携～

（株）リーフエッヂ あまみん
代表取締役
田中 基次 さん

最初の事業は、高齢化が進み人材不足に悩む農家のお手伝いで、労働対価は作物の現物支給でした。それを現金化したい、畑で働けない利用者さんの仕事もつくりたいと、試行錯誤の末たどり着いたのが、ジェラートとハーブティー製造の六次化です。一時期はコロナ禍で観光客が激減しましたが、お取り寄せブームや奄美群島の世界遺産登録などの追い風を受け、順調に売上を伸ばしています。今後は、農福連携をもう一歩進め、島内循環型農業や農泊事業にもチャレンジ。地域の方と一緒に楽しく仕事を拡大しようと、夢を語り合っています。

メンバーと共に立ち上げた農福連携実践で工賃向上を目指す

福井県あわら市の休校になった小学校を改造した「波松ステイ・なみまちCAFE」がメイン会場です。その近くにあるNPO法人ピアファームが運営する観光果樹園からの現地リポートでフォーラムは開幕しました。

福井会場

9月12日(火)

実践報告1

農福連携による高工賃の実現

(社福)ゆずりは会　菜の花管理者

小淵 久徳 さん

私が平成27年にヤマト福祉財団の夢へのかけ橋実践塾「熊田塾」に入塾し、最初に実践したのはPDCAを回すことでした。そこで年間栽培計画の重要性に気づいたのです。それが収益の高い作物の選定や機械化にも繋がりました。現在、長ネギやブロッコリーに加え、雨でも収穫ができるタマネギ、エダマメなど約8品目を計画的に栽培しています。そして入塾時２万7,000円の給料は約５万円に。昨年はタマネギ高騰の影響で7万6,000円になりました。今後も地元農家や他業者とも力を合わせ、みんなでもっとハッピーになりたいと思っています。

実践報告2

私たちが目指す農福連携

(一社)空　代表

熊田 芳江 さん

これまで多くの福祉施設が「熊田塾」「農福連携実践塾」を卒業し、全国で農福連携の実践者として活躍中です。小淵さんには、昨年末から「たまねぎ栽培塾」の塾長を務めてもらっています。年々高齢化・人手不足が深刻化していく日本の農業が期待するのが、地域にも大きなメリットを生む農福連携です。その成功に最も必要なのは「なんとしても農業をやる！ 」という福祉側の強い覚悟。それが伝われば作物の選定や栽培方法、また農地の確保など周りの農家が協力してくれるはず。なにより自分たちが地域に溶け込んでいくことです。

特別講演

農業で工賃向上!!

(NPO)ピアファーム
理事長

林 博文 さん

競合相手が少ないほど事業として成功しやすい

福井県あわら市は稲作が主体。当初「果樹栽培は素人ができるほど易しくはない」と反対されました。あえてぶどう栽培を選んだのは「ライバルが少なければ、販売しやすく、成功率が高い」と考えたからです。

私は、どんな品種をどう栽培するかなど果樹栽培のプロの指導を受け、設備購入には助成金をとことん活用しました。助成金は、自施設の理念や現状を明確にしなければ申請できません。これは職員の意識向上を図る上でもとても効果があります。

地域と一緒に成功を目指す農福連携こそ計画性が重要

私の目標は、利用者さんが「さりげなくあたりまえにはたらく」インクルーシブな世界です。そのためにも安定した生産・品質の実績を築き、農業法人の認定も取り、本物の農業者として周りに認めていただけるように努めてきました。

大切なのは、中期・長期の計画を立てることです。私は毎日、うちの畑の天候や気温変化と作物への影響を記録してきました。これをもとに改善点を見直し、毎年新たな栽培計画を立てています。

現在、観光ぶどう農園「あわらベルジェ」が開園中です。私が塾長を務める「ぶどう栽培塾」でも、お客様が収穫して買っていただける観光農園のメリットを伝えています。

農業に特化した就労支援は、地域と一緒に町を活性化する意味でも、非常に大事なところだと思います。

地域産業の活性化を図り、地域とともに暮らしていく

福岡会場は、八女市のイベント施設「八女市民会館 おりなす八女」です。「会場には、地域産業を盛り上げる一翼を担うハイジ福祉会が栽培する美しいガーベラが飾られています」と山内理事長が紹介し、オンライン配信をスタートしました。

福岡会場

9月20日(水)

実践報告1

誰もが対等に地域で働き、地域で生きる活動を目指して

(社福)くまもと障害者労働センター
理事・事務長
野尻 健司 さん

「人生で一度は、社会で働いてみたい」。そんな脳性麻痺の方の言葉に自分の無力さを知った私は、もう一度大学で学び直すことに。そこで出会った恩師と立ち上げたのが「くまもと障害者労働センター(通称おれんじ村)」です。事業は菓子・弁当の製造とその販売を行うカフェの運営など。おれんじ村では、利用者さんも職員も対等です。だから「障がいや能力で格差が出ないように」とのみんなの意見をもとに時給380円を一律で支払うことに。今後も当事者の考えを反映し、一人ひとりが望むライフステージを一つずつ実現していきます。

実践報告2

小さい施設でもステップアップできること

(一社)あんずの森　代表
泉 栄 さん

夢へのかけ橋実践塾・新堂塾に入った私は、挫折感を味わいます。他塾生は次々と給料・仕事量アップと結果を出していく。みんなのマネをしたくても、うちは愛媛県松山市の田舎にある小さな施設で周辺環境や特産品などまったく違う。さらに追い討ちをかけてコロナ禍で大ピンチに。そのとき「小さいから小回りが利くし、意思決定も早い」と発想を転換しました。そして新堂塾で出会ったペットフード会社の仕事や近隣の物流センターでの施設外就労などにつながりました。今後も弱点を強みに変え、給料増額を目指していきます。

特別講演

利用者も職員も幸せになる取り組み・ハイジ福祉会の農福連携

(社福)ハイジ福祉会
理事長
山口 由紀子 さん
施設長
山口 隆充 さん

「精神障がい者が安心して働ける居場所を」山口理事長

精神障がい者の兄がいたことが、私が福祉の世界に入るきっかけです。2001年当時は利用者さんの仕事も給料も驚くほど少なく、これはなんとかしなければと営業に走り回りました。目指したのは、多様な仕事から適したものを選び「ここが自分の居場所だ」と安心して通えるようにすること。さらに全国の仲間と精神障がい者の交通運賃割引の署名活動を開始。2017年には鉄道や航空会社などの割引も実現できました。

「地元農家も利用者さんもWin-Winに」山口施設長

八女市はガーベラの一大産地ですが、農家は深夜に及ぶ調整・出荷作業に苦労しています。そこでJAと交渉し、2014年にフラワーパッケージセンター(FPC)を開設しました。仕事がない福祉と高齢化や人手不足に悩む農業の足りない部分をマッチングさせたいというのが理由でした。

FPCでは農家より持ち込まれる花卉の調整・出荷作業をハイジ福祉会の利用者さんが担当。農家は栽培に集中することで、いままで以上に生産を拡大しています。

また、調整・出荷作業だけでなく、自らガーベラやトマトの生産を手がけるようになりました。ガーベラは1年中花が収穫できるので、利用者さんが継続的に仕事ができます。現在は、JAに加入し花の町・八女市の戦力になっていると自負しています。

おしごと発見フェア 2023

「会って、相談して、体験できる！」ワンストップ型イベント、2年目の開催！

沖縄の「働きたい！」障がい者の想いと「採用したい！」企業の考えをマッチングさせる参加型イベントが9月14日に開かれました。前年より内容もパワーアップし、参加されたみなさん、それぞれ手応えを感じたようです。

ゆいジョブ！実行委員会とボランティアスタッフ

前回より規模も中身もいっそう充実！障がい者の「働く」をより想像しやすく

沖縄パワーアップフォーラムの分科会活動から生まれた「ゆいジョブ！」は、障がい者と採用企業をつなぐマッチング情報局です。

その「ゆいジョブ！」がウェブを飛び出し、就活に欠かせないリアルな出会いの場として企画するイベント「おしごと発見フェア2023」。第2回を迎える今回は8月5日を予定していましたが、台風6号の影響を受けて延期され、晴れて9月14日の開催となりました。

会場は沖縄コンベンションセンター（宜野湾市）の展示棟で、前年より広くなり、「合同企業説明会」の参加企業は昨年の18社→24社に。昨年は障がい者施設による模擬体験会だった「おしごとチャレンジ体験会」も、今年は企業による体験会へとバージョンアップ。13社の参加でより実践的な内容になりました。

イベントには約450人が来場。その様子は、地元テレビでも放送されました。

今年の開催は沖縄コンベンションセンターの展示棟。2階席はフリースペースとして開放されました

障がい者雇用に前向きな沖縄 障がい者が〝あたりまえ〟に働ける社会に

沖縄の法定雇用率は2022年度2・97％で全国1位。沖縄では、従業員数10人未満の企業でも「ゆいまーる（＝助け合い、一緒にがんばる）」の精神で障がい者雇用を実践する事業所も多いという現状があります。深刻化する人手不足もあって、職種・業種、企業規模を問わず、障がい者雇用への関心がいっそう高まっています。

また今年は初めて、会場整理などを担当するボランティア22名が参加しました。各体験ブースで整理券を配布、順番が来たら呼び出すことで、前回見られた順番待ちの行列も解消されました。ボランティアにとっても障がい者や障がい者とともに働くことについて、気づきがあった方もいたようです。

イベント自体も成長を見せた「おしごと発見フェア」、注目度が増す今後に期待です。

自立するために必要な生活資金の家計簿をつけ学習するコーナー（サポートセンター・ミラソル）

仕事をするために、自己の障がい特性上、配慮を得たいこと（合理的配慮）を学び理解するコーナー（㈱LITALICOワークス沖縄）

広い展示棟いっぱいにブースが設営され、TVクルーの取材もありました

教材・教具・補助具紹介コーナー
（提供：沖縄県内の特別支援学校・福祉施設）

地元の福祉事業所が軽食販売を担当しました。

就職準備なんでも相談会

ゆいジョブ！ presents おしごと発見フェア 2023

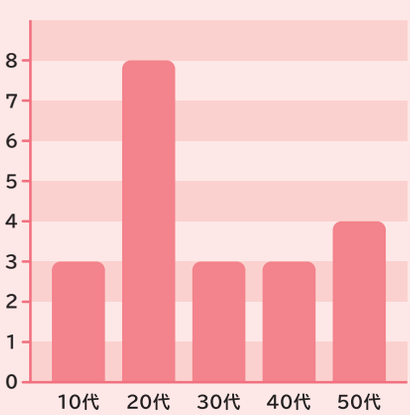
9月14日 10:00 ～15:00 沖縄コンベンションセンター展示棟

後援：沖縄県／沖縄県教育委員会／沖縄労働局／独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 沖縄支部／沖縄県中小企業家同友会／沖縄経済同友会／沖縄県商工会議所連合会／一般社団法人 沖縄県経営者協会／沖縄県商工会連合会／沖縄タイムス社／琉球新報社

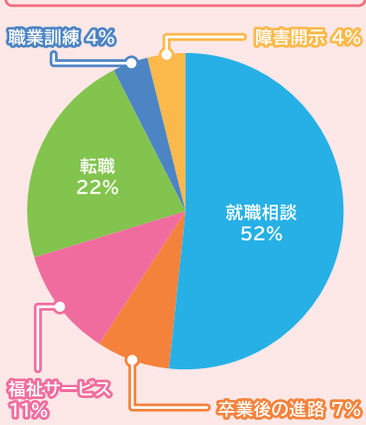
※本フェアは、ゆいジョブ！実行委員会とヤマト福祉財団が主催し、沖縄県をはじめ多くの後援を得て企画されたものです

当日は初の試みとして、沖縄大学有志、那覇ジョブサポーター、どこでWork（株）から22名のボランティアが参加し、会場整理などで活躍しました。

年代別相談件数



相談内容



就職準備なんでも相談会

就職にまつわる悩みや不安はさまざま。「なかなか採用が決まらない」「障がい者手帳を持っていない」など…、個別の事情に沿った解決の糸口を見つけるお手伝いをします。もちろん必要に応じて、ハローワークなど専門機関への橋渡しも行います。
今年は中部（宜野湾）地域の担当者も加わり、カウンセラーの幅を広げて対応しました。ご相談事では就職、転職のほか、卒業後の進路、日常生活にまつわるご相談が目立ちました。

合同企業説明会

「どのような事業をしている会社なのか？」「どんな職種の働き手を探しているのか？」「職場環境の様子は？」といった疑問について、県内企業24社がブースを設けて、参加者へ説明しました。立ち見が出るブースもあれば、障がい者雇用に意欲的で初めて出展を決めた企業もありました。

（株）KPG HOTEL&RESORT

沖縄、九州でホテル・旅館の運営。採用職種は問いませんが、キッチン補助、客室清掃、レストランサービスなどで、年間15校ほど特別支援学校からのインターンシップ受入実績があります。

ザ・テラスホテルズ（株）

「ブセナテラス」など県内でホテルを運営。調理補助、植栽管理、調達関係、部屋の付属品チェックといった職種をメインに紹介。ホテル関連はどこのブースも人気でした。

（株）沖縄タイムス社

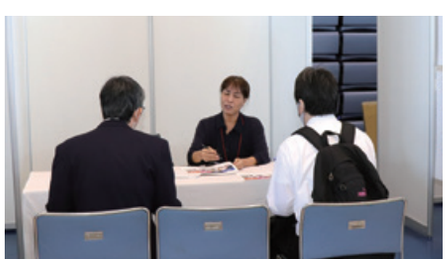
創立75周年の地元新聞社です。テレワーク環境も整い、管理職、記者職、システム職で活躍している障がい社員の実績がすでにあります。ノーマライゼーションへの強い意欲が窺えました。

イオン琉球（株）

県内60の事業所で現在120名の障がい者が総菜製造、農産小分け、袋詰め、品出しを担当。ふだんの買い物で業務のイメージもしやすく、立ち見が出る盛況ぶりでした。

（株）沖縄ダイケン

総合ビルメンテナンス企業です。一般清掃、ホテル清掃業務について、一人で一定程度を任せられるような人材が希望です。時間をかけて一緒に働く仲間を探したい考えです。



SPuLA 尚学院公務員法律大学校

募集は学校事務職。立ち上げたばかりのリモートワークプロジェクトも活用して、初の障がい者雇用を目指しています。障がいのある方の意見を知りたいと、本イベントに初参加しました。

（有）フィーチャー企画

福祉サービス「みかん・おれんじグループ」の一翼を担う法人です。主な募集職種は介護補助、清掃ですが、その人に合った仕事を提供します。ヘルパー資格取得支援もアピールポイントです。

合同企業説明会 参加企業一覧：（株）沖縄タイムス社／（有）フィーチャー企画／（株）那覇ミート／ SPuLA尚学院公務員法律大学校／タピック沖縄（株）／医療法人タピック／農業生産法人 （株）仲善／（株）okicom ／（株）ホテルオリオン モトブ／（株）おきなわedu ／（有）大宮工機／（有）仲松ミート／沖縄ホンダ（株）／イオン琉球（株）／（株）アイセック・ジャパン／沖縄ヤマト運輸（株）／（株） KPG HOTEL&RESORT ／（株）琉新の風／（株）ベルシステム24 ／ウイングアーク1st（株）／（株）ジャンボツアーズ／ザ・テラスホテルズ（株）／（株）ワールドスタッフィング／（株）沖縄ダイケン（全24社・団体／順不動敬称略）

おしごとチャレンジ体験会

施設による模擬体験から今年はグレードアップして、実際の企業が各々リアルな業務に沿ったお仕事体験を提供しました。また、就職活動に役立つスーツの着こなしや、ビジネスマナーの実践的な講習が催されました。「自分に合った職種」や「漠然としていた業種への理解」など、参加者は新たな発見を受け取ったようです。

イカリ消毒沖縄(株)／「捕獲虫の調査分析」体験

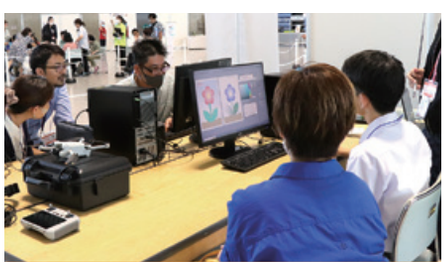
障がい者雇用に意欲的で本イベントに初参加。虫取り器に捕獲された虫の数や種類を図鑑で調べ、そこから適切な衛生管理を提案する過程が学べました。

オフィスキャリエール／「模擬面接とメイクアップ講座」

ビジネスマナーの研修などを手がけるオフィスキャリエールは、面接で本人の強みを上手に伝えるコツや、ビジネスメイクの指導を行いました。

(株)琉新の風
「介護の支援補助」体験

福祉事業で社会に貢献する「琉新の風」。デイサービス向けの楽器を使ったレクから、食事介助、オムツ交換など、介護の現場を再現。



(株)ベルシステム24
「研修用・プレゼン用動画編集」体験

全国でコールセンター業務を受注。県内2事業所で4名の障がい社員が動画編集の業務に就いています。説明会・体験会ともにいつも人だかりでした。

洋服の青山
「スーツの着こなし講座」

初めてスーツを着る方に向けて、各種スーツの特徴やメンテナンスの仕方、着こなしの具体的なポイントなどを、参加者にアドバイスしました。

(株)ジャンボツアーズ
「旅行予約サイトへのシステム入力」体験

PCを使った、大手旅行予約サイトへの申込みデータの入力やアップロード作業を紹介。多くの体験希望者で賑わいました。

想いっきり沖縄
「海ぶどう試食販売」体験

沖縄特産品の販売と飲食店を運営しています。参加者には、ブース前を通る方に海ぶどうの試食を進めることに挑戦してもらいました。

沖縄ヤマト運輸(株)
「梱包・荷受け」体験

お預かりした荷物を梱包し、サイズを計測。ポータブルポス(携帯情報端末)に荷物データを計上するまでをリアルに体験。

おしごとチャレンジ体験会 協力企業一覧：想いっきり沖縄／(株)ジャンボツアーズ／(株)ベルシステム24／沖縄ヤマト運輸(株)／沖縄ホンダ(株)／洋服の青山／オフィスキャリエール／イカリ消毒沖縄(株)／(有)たけ事務／(有)ナンセイ日本商事／(株)琉新の風／(株)JOeBテック／(株)コールアップジャパン(全13社・団体／順不動敬称略)

今年、移転オープンした法学部キャンパスの正面に立つテミス像の前で

私たちの賛助会費が生かされています

奨学生レポートVol.14

学びたいことがあるから、
挑戦したいことがあるから…。
そんな想いで大学に進学をした
障がい学生がいます。
そんな彼らを奨学金制度で
応援しています。

持田 温紀さん

中央大学
法学部政治学科4年

4歳からサッカーを始め、中学校サッカー部では選手兼監督を経験。高校通学中の自転車事故で下肢機能障がいに。大学では学友会サッカー部に所属し、大学スポーツ協会が表彰する「UNIVAS AWARDS 2022-23」でサポーティングスタッフ部門最優秀賞を受賞。

障がい者奨学金制度

社会の役に立ちたい、自己実現を図りたいと、障がいを乗り越えて大学で熱心に学ぶ方々に月額5万円（返済不要）を助成しています。

ボールが蹴れなくても12人目のプレーヤー

明るい先輩に惹かれて

日本代表の活躍に沸き立った昨年のFIFAワールドカップ・カタール大会。グループリーグ、スペイン戦試合前の国歌斉唱で、代表とともにピッチに上がった車いすの日本人青年がいました。当時、大いに注目された彼こそ、持田温紀さんです。

サッカーと出会ったのは幼稚園時代。地元FCに参加し、「小学生のころとかは日本代表になるのが夢でした」。

しかし16歳のときに頸髄を損傷。以来、車いすの生活になりました。振り返って「どうすればこの状況から抜け出せるんだろうって、深く落ち込んだこともあったと思います。でも、うれしかったことはずっと覚えているのに、辛かったときのことは乗り越えてしまうとあまり覚えていないものですね」。

社会科が好きだった持田さんは、入院中の持て余した時間で「ニュース時事能力検定」に挑戦。当時、受験年度の最年少で1級に合格します。大学受験はその経験を生かせる自己推薦型の入試を目指すことにしました。

受験対策のために通った塾で、中央大学法学部の学生に勉強を教わるうち、次第に法律にも関心を持つように。この先輩の明るくポジティブな人柄にも憧れを覚え、中央大学を受験。晴れて法学部生となりました。

もう一度、サッカーに

学部長賞を受賞し大学からも奨学金を得るなど、大学の授業に真正面から取り組み続けている持田さんですが、入学して間もなく受講した講義が、彼をふたたびサッカーの道へと呼び戻すことになります。

「別学部の授業でしたが、Jリーグを題材に

ビジネスを学ぶというもので、担当の先生に相談をしているうちに、大学のサッカー部が、プレーヤー以外のマネジメント面を手伝える人材を探していると聞いたんです」

折しも中央大学サッカー部は組織改革を模索している最中でした。営業活動や地域との交流などを担う、いわゆるフロント制の導入を検討していたのです。

「当時所属していたリーグでスポンサーがついていないのは中央大学だけだと聞きました。コーチの方々にお会いしてみると、チームとしてミッションやビジョンを明確にし、達成への行動指針もしっかりしていて感銘を受けました」

大学受験の多様化は、障がいのある子にとってチャンスが広がると、持田さんは言います

学食でたまたま出会った吉田千春助教と

部則も改められ、選手・マネージャー等以外で、持田さんは初の入部者になりました。

出会いが運んだスポンサー

部内に立ち上げられた「事業本部」に籍を置き、さっそくスポンサー探しに奔走しました。

「サッカー部のみんなが優しいからこそ入部できたとは思うんですけど、外部の方から車いすの子をなんとかサッカー部に入れてあげたと見られるのは嫌でしたし、車いすとか関係なく、部の一員として能力を発揮してきちんと評価されたかったんです」

最初は地元のお店やOBに挨拶に回ったり、メールを送ることから始めましたが、「1年生のゼミ合宿で掛川市を訪れた際、たまたま行く直前に、車いすの方が駄菓子屋を開いた記事を目にし、立ち寄りました。

その方とはすごく仲良くなって、サッカー部が地域で開くサッカー教室にお菓子の提供などをお願いするようになりました。

すると、その繋がりから、つぎに駄菓子屋さんを支えている企業ともご縁ができて、ユニフォームに名前の入る大口のスポンサーになっていただくことができました」

スポンサーは現在では10社を超え、最近は大学スポーツ界で先駆的となるクラブトークン発行によるファンディングにも取り組んでいます。「資金面も大事ですけど、それ以上に中大サッカー部のことを気にかけてくれる人が増えてくれることの意義を感じています」。

「うれしい瞬間はあっという間で儚いけど、ずっと覚えている気がします。カタールでの瞬間も、パラダンスのステージから見えた景色も、サッカーでゴールを決めた時のことも」と持田さん。写真はカタールの現地観客と撮った写真

サッカーやパラスポーツに関わって「スポーツが人々をどれだけ元気にし、いかに人同士をつなげるか実感しています」(写真提供：中央大学学友会サッカー部)

8位に入賞したパラダンススポーツ国際大会。SUPER BEAVERの楽曲に合わせて踊りました(写真提供：パラダンススポーツ協会)

スポーツで展望を拓きたい

持田さんの学生生活は、とにかく精力的でびっくりします。

学業、サッカー部と並行して、入寮した国際学生寮での世話役や、パラスポーツの日常化を目指す「パラ大学祭」の運営代表も務めています。

また、今年始めたパラダンスでは今夏に東京で開かれた国際大会のフリースタイル部門で入賞し、11月にイタリアで開催されるパラダンススポーツの世界最高峰の大会、World Championships 世界選手権に日本代表として出場します。まさに八面六臂の活躍です。

卒業後の進路はまだ決めかねているそうですが、「一つには、海外で活躍したいなとは思っています。W杯での経験がものすごく響いているので」。

サッカー部から派遣された東南アジアでの研修で初めて海外を訪れ、その際に2ヵ月後に控えた「W杯の現地観戦」を宣言。当時は勢いあまって言ってしまった願望のような宣言でしたが、溢れるサッカー愛を抑えることはできず、一人カタールへと旅立ちました。

トラブルにも見舞われましたが、観戦に来た「世界中の人たちが車いすを手伝ってくれたり、現地の人と歓喜して写真を撮り合ったり…。これはすごい！　人種、国籍を越えてサッカーの生み出す平和を見ているなって」

サッカーを続けてきたからこその経験を通じて今、「もっともっと自分らしい人生を作っていくことができるはず」――持田さんは確信を深めています。

通年できる水耕ハウス栽培で、彼らの暮らしの質を高めていく

立山黒部アルペンルートの玄関口・立山町。稲作中心のこの地域で水耕栽培事業に挑み、今年6月の平均工賃約2万5,000円を実現させたのが〈わくわくファーム きらり〉です。しかし、これまでの道程には、予想を超える物語がありました。

Data
NPO法人クラシーズ　わくわくファーム きらり
（水耕栽培事業部グリーンハート）
富山県中新川郡立山町

この日、ネギ畑では除草作業中。佐藤委員長も炎天下の畑でお手伝いしました

無農薬で大切に育てる水耕栽培

立山連峰の雄大な山並みを遠くに望む平野に水田が広がります。その中に白い建物が見えてきました。富山駅から車で走ること約40分。近づくほどにその大きさが際立ちます。

訪れたのは8月の下旬。6つの棟が連なったように見えるビニールハウスは1反、50mプールがすっぽり収まってしまいそうな広さ。内部の暑さは相当なものです。そこですくすくと育っていたのは、水耕栽培のサラダほうれん草。腰の高さに設置したベンチから青々とした葉を覗かせていました。

「ここで月に約1tの野菜を出荷しています」と話すのは、〈わくわくファーム きらり〉理事長の息子で栽培責任者の中島大地さん。

2021年、当財団の助成を活用して新調した水耕用定植パネル1,300枚と遮光ネットが、ここで一役買っています。パネルは銀イオンを含む抗菌作用が期待できるもので、野菜の病気がぐっと減ったそうです。また、収穫後のパネルは消毒洗浄しますが、以前に比べて軽量で扱いやすいため、洗浄にかかる負担も減少。夏でも冬でもカッパ着用で水洗いする時間の短縮にもつながったと言います。

パネル洗浄のほか、障がいのある利用者は定植や収穫された野菜の調整を主に担当。「調整」とは、折れた茎など不備のある部分を取り除く作業だそう。収穫や計量、袋詰めは職員が行っています。

「水耕栽培の野菜は軟らかくて、折れやすいんです。収穫は一番難しい作業で、健常者でもできない人はできません。1から10まで利用者ではなく、要所に健常者も入って、互いの得意をかけ合わせて一緒にやっていくのが、自分たちの農福連携だと考えています」

降って湧いた借金話

「中島さんは公務員だから簡単に借金できるよって、その社長に言われて…。銀行に相談に

サラダほうれん草の調整作業。繊細さが求められます

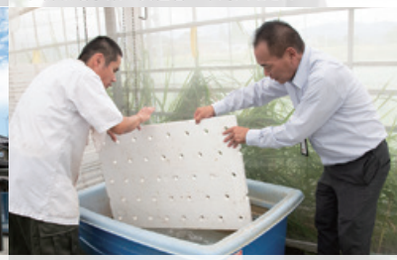
立山連峰を背中にして、わくわくファームきらり。敷地にはログハウスのグループホーム2棟があります

水耕栽培のハウスで、利用者のみなさんと

理事長の中島代志美さん

水耕栽培事業の責任者・中島大地さん

グループホームのスクラム。ここから事業がスタートしました


集荷後の水耕栽培パネルはすべて手洗いで殺菌洗浄しています

行って、結局4，000万借りたんですよ」

理事長の中島代志美さんに、同団体発足の経緯を伺うと、それは数奇なものでした。

7年前に定年を迎えた中島理事長は元教員です。支援学校で20年、普通中学校の特別支援学級で20年。特別支援学級に移ったころにお母さんたちと、障がい児の将来をどう組み立てていくのか勉強会を立ち上げます。

その活動で知り合ったのが、なにかと手助けしてくれた一人の事業家です。彼は障がい者を自社で雇い、寮で自立させるというビジョンを熱心に語っていました。

「ついては彼らの住む寮を、中島さん建ててくれないか、と言い出したんです。えー、なんで私がって!?」（笑）。しかし当時のお母さん方は、将来を思い描くには程遠く、前向きになれずにいました。そこで中島さんは決断します。

「彼らが自立して暮らす姿を見れば、考えも変わるかなって…」。ところが3年ほどでその会社は倒産。事業家も住んでいた障がい者もいなくなってしまいました。残ったのは借金と建物だけ。

「愕然としました。こんなことってあるんかなって。でも私、ずっと落ち込んでる人でもないので、その寮をグループホームにしようと仲間を集めて検討を始めました」。

NPO法人であれば運営ができることを行政に確認すると、2003年には法人を立ち上げ、グループホーム事業のスタートに漕ぎ着けます。ほぼ同時に「働くところも必要だ」と始めたのが〈きらり〉です。

「就労」からのノーマライゼーションへ

畑を借りたネギ栽培などを中心事業としてきた〈きらり〉が、水耕栽培に手を広げたのは2016年のことです。17年間、障がい者雇用に励んできた企業〈野菜ランド立山〉が廃業されると聞き、引き継ぎました。

大地さんによれば現在、ルッコラやフェンネル、ミニセルリーといった新種の野菜など栽培品種を10に増やし、その中の一つであるパクチーを加工したソースの製造販売も計画しているそうです。

水耕栽培事業の年間売上目標1，200万円も手の届かない数字ではありません。

同法人の理念は「ともに生きる ともにくらす ともにはたらく」。

その原点は理事長の教員時代の経験です。生徒の就職先を探して県外まで回りましたが、社会の壁は厚く、ありのままの障がい者を理解して採用してくれる会社はわずかだったと言います。

「生徒たちは、違いを説明もできなければ、自分たちの力で距離を縮めていくこともできない。だから私は、彼らなりの働き方で頑張ったり、生き生きしたりできる場を作ってあげたかったし、そんな姿を知ってもらえれば、世間の見方も変わるんじゃないかなって思っているんです」と理事長。来年には地域との交流スペースとしてカフェを併設した多機能型事業所を新たにたちあげる予定です。

「障がい者との関わり方を学びたいという福祉サポーターの研修も近々、町から引き受けます。もっとここで交流が生まれてくれればいいと思います」

〈わくわくファーム きらり〉は障がい者の暮らしを考え、ひたむきに進んでいます。

労働組合支部執行委員長 助成先訪問 Series 41

ヤマト運輸労働組合
富山支部執行委員長
佐藤 哲也さん

改めていろいろと勉強になりました

施設に実際にお伺いするのは初めてでした。障がいのある方たちがこうしたところで一生懸命がんばっていることは、まだまだ世間の人たちに知られていないですね。もっと情報発信していく必要性を感じました。

社員のみなさんからお預かりした夏のカンパ金がこういった形で県内の施設でお役に立っていることを、組合員の方々にもっと深く伝えていかなくてはならないと思いました。

青年部のボランティア活動では例えばこれまで、地域のゴミ拾いなどに取り組んできました。こちらにお伺いして自分たちができることは他にもいろいろあると分かりましたので、今後はそうした視野も持ちながら運営していきたいと再確認しました。

農福連携
実践塾

すべては高工賃のために

今回で終了となる第4回ぶどう栽培塾は、最後にぶどうの収穫。第2回たまねぎ塾は、苗を作るための種蒔きを行いました。

第4回

ぶどう栽培塾

塾長（NPO）ピアファーム
理事長　林博文さん

工賃を高くするには、高いものを売る

4月の花穂成形のとき、手のひらに入るくらいの小さな房だったものが、一つひとつの粒が大きく両手で包むほどのシャインマスカットに育ちました。9月11～12日、最後の工程になるぶどう栽培塾を開催。今回は林塾長の講義と塾生がさまざまな工程に関わったぶどうの収穫です。

林塾長はピアファームでの売上、販路など惜しみなく塾生に開示。観光ぶどう園あわらベルジュの7月から昨日（9月10日）までの、毎日の記録（天気、気温、来客情報、客単価等々）に基づいて「7月から9月10日までの間で、1000万円の売上を超えた。どこかに売りに行くより、ここで売ることを大事にしたい」と言います。

野菜より単価が高く、雨の日でも作業ができて、お客様が来園して喜んで収穫をしてくれる三方良しの事業。「ぶどう栽培は就労支援に適している。工賃を高くするには高いものを売る。これからの福祉事業は稼ぐと言う事を考えてほしい」と講義を締めくくりました。

第2回

たまねぎ栽培塾

塾長（社福）ゆずりは会　菜の花
管理者　小淵久徳さん

良い苗を育てるためのこだわりを大事に

9月21～22日、第2回たまねぎ塾を開催しました。今回のテーマは「播種」。いわば、たまねぎ栽培のスタートにあたる研修です。

草が生えないように太陽熱で殺菌した苗床のマルチシートを外します。これは8月のお盆頃から下準備をしてきたもの。そこに種まき機を使って種を撒いていきます。

たまねぎ栽培塾の小淵塾長が「絶対にしなければならない」ことの一つに、種を蒔くだけでなく、蒔き終わったら寒冷紗をかぶせること。これにより、急な雨でも植えたばかりの種が流れたり、土が硬くなるのを防ぎます。塾生も種まき機を使い、みんなで協力して寒冷紗を張り、約5反分を植える苗の種蒔きを完了しました。

翌日は、塾生のたまねぎ圃場の進捗状況を報告。小淵塾長は、「良い苗を作るために多くのこだわりを持って、ルールの中で種蒔きをしている。良い苗が収穫に繋がり、収益・工賃に繋がります」と塾生に伝えて、終了しました。

スワン工舎卒業生訪問 38 株式会社精興社さま

(株)精興社／大正2年に神田で創業、今年110周年を迎えた印刷会社です。福音館書店様や岩波書店様など多くの出版社から発注いただき絵本や書籍を中心に、丁寧でクオリティの高い印刷物を生産しています。障がい者雇用の課題解決に向けて模索中です。

朝霞工場のみなさんと。前列まん中が田中将和さん

厚くて重い紙が来たって、期待に応えて頑張ります！

製本業に16年、ベーカリーに10年務めた職人肌の田中将和さん。現在の業務もしっかり板につき、今後は「不得手な確認作業も努力して覚えたい」と意気込んでいます。

■社会福祉法人ヤマト自立センター スワン工舎　就労に必要なスキルの習得はもちろん就労先の開拓からジョブコーチによる就労後のサポートまで一貫したプログラムで、障がい者の自立支援に取り組んでいます。

体得したノウハウを着実に仕事に生かせる強み

一枚なら秋の初風にも揺れる紙も、工場で印刷機にかける大きな紙束ともなれば、その重量は相当なもの。

「重い紙を運ぶには、身体の原理をうまく使ってやるといいんだけど、田中さんはそのコツが分かっている。最初からセンスがありました」と仰るのは、工場長の芹澤真さん。

田中将和さんは3ヵ月のトライアル期間を経て、昨年から精興社の朝霞工場で〈紙積み〉の作業を中心に日々、汗を流しています。

紙積みは印刷機に用紙をセットする責任重大な仕事です。複数あるサイズ・用紙の中から、指示書に従って印刷物に合ったものをストックから抜き、整えて並べ直し、適切な枚数を印刷機にセットしなくてはなりません。

田中さんを採用した経緯について、総務管理部執行役員の中村博幸さんに伺いました。

「以前、聴覚障がいのある社員が、校正の仕事で働いていましたが、高齢で退職されました。障がいのある方の雇用を弊社としても真剣に考えているのですが、専門性も高く厳しい印刷の現場です。しっかりと戦力となっていただける方を、と探していたんです」

じつは田中さん、10年以上も前ですが製本所に長く勤めた経験がありました。工場長もその点が決め手になったと語ります。

「印刷と関連するノウハウを、田中さんはすでに持っていた。それと一番びっくりしたのが、きちんと安全確認ができること。印刷も製造業なので、欠かせないところなんです」

田中さん自身は「最初は難しかったけど仕事も覚えて褒められるようになった」と手応えを感じています。いま、同じ職場に障がい者は田中さんだけ。独りぼっちは寂しい面もあるけれど、「穏やかに働けるのはいいところ」と、長く働きたい意向です。

田中さんの安定した仕事ぶりを、芹澤工場長は高く評価しつつ、より自律的な活躍ができるよう、今後の成長に期待しています。

湿度の影響を避けるためにラップで梱包。この作業、田中さんは初めから教わらずにできたそう

印刷機にセットする前に、台の上で用紙の間に空気を入れます

田中 将和 さん　株式会社精興社（2022年9月27日入社）

趣味はウォーキングのほか、笑点、世界遺産の番組視聴。通勤のために気象情報のチェックも欠かしません。コロナが明けたら、特急あずさに乗って甲府へ家族旅行するのが、目下の夢です。

精興社で刷った絵本たち

総務管理部執行役員の中村博幸さん（左）、取締役朝霞工場長の芹澤真さん（右）

2023年度 ヤマト福祉財団
奨学金贈呈式を行いました

ヤマト福祉財団では、社会に役立ちたいと学ぶ障がいのある大学生に月額5万円（返済不要）の奨学金を差し上げています。今年度は55名の応募があり、新たに11名の大学生が選考されました。

坂本 彩華さん
東京外国語大学 言語文化学部 アラビア語学科1年

原 昂大さん
東京情報大学 総合情報学部 総合情報学科1年

永井 慶吾さん
慶應義塾大学 環境情報学部1年

吉野 克利さん
名古屋大学 医学部 医学科2年

宮口 陽邑さん
大阪公立大学 理学部 数学科2年

木村 栄喜さん
鹿児島大学 歯学部 歯学科4年

田島 和弥さん
立命館アジア太平洋大学 国際経営学部 国際経営学科2年

YWF TOPICS

組合員のみなさまから夏のカンパより70,860,000円のご寄付をいただきました。みなさまの善意を障がい者の自立支援に使わせていただきます

今年もヤマトグループ企業労働組合連合会様より夏のカンパのご寄付をいただき、9月8日、ヤマト運輸労働組合第76回定期中央大会(新潟県・湯沢カルチャーセンター)の中で、贈呈式が行われました。

贈呈式で山内理事長は、大会に参集されている全国の組合を代表する役員のみなさまに

「福祉財団が創立して30年になります。みなさんは毎日、社訓を唱和されていると思いますが、その中に企業姿勢というものがあります。じつはこれを創るときに、私も関わっていて、小倉さんといろいろ話をしながら、小倉さんの思いを込めて創ったものです。『宅急便を社会インフラとして、豊かな社会の実現に貢献します』というのが小倉さんの思い。12項目ある企業姿勢の6番目に「ヤマトグループは、地域社会から信頼される事業活動を行うとともに、豊かな地域づくりに貢献します。特に障がいのある方を含む社会的弱者の自立支援を積極的に行います」と書いてある。後半の「特に障がいのある方を含む社会的弱者を支援〜〜」というところは、事務局が持って行った原稿ではなく、『ここを入れたい』と小倉さん自身が書いた言葉なんです。その思いが『福祉財団』という形になり、みなさんの気持ちが夏のカンパというところに向かっているのだと思います。

また、障がい者の自立支援のために財団ではボランティア活動を行っていますが、この活動にも組合のみなさまに多大なご協力をいただいております。農業に取り組む障がい者とその地域の支部のみなさまが一緒に、作物の苗を植えたり収穫をしたり、という活動を各地で進めています。3年間で7支部のみなさまにご協力をいただきました。また、学生と障がい者をつなぐ活動の中では、青年部のみなさまにもご協力をいただいています。障がい者の自立支援の活動を通じながらこれからもご協力を賜れれば幸いです。改めて感謝を申し上げます」と御礼の言葉を組合員のみなさまにお伝えし、挨拶を締めくくりました。

青森ねぶた祭2023 ふくしねぶたもラッセラー

4年ぶりの通常開催となる青森ねぶた祭2023。8月4日、ヤマト運輸ねぶた実行委員会のご協力をいただき、ふくしねぶたも運行に加わりました。青森市社会福祉協議会が中心となり、352名の青森市内の障がい者のみなさんが参加。4年ぶりの参加に障がい者のみなさんも大盛り上がりです。ハネトとして、「ラッセラー、ラッセラー」の声がお祭りの夜空に響きました。

音楽宅急便2023 「クロネコ ファミリーコンサート」開催

7月17日〜8月22日

クロネコファミリーコンサート福岡講演

今年も音楽宅急便2023「クロネコ ファミリーコンサート」が全国5都市で開催されました。このコンサートは故・小倉昌男氏の「本物の、いい音楽を年齢や地域を越えてすべての人にお届けしたい」との願いから、1986年に始まりました。本年は「障がい者の働く場パワーアップフォーラム」の開催地でもある福井県、福岡県でも公演され、当日は施設の利用者、ご家族、職員など、多くの方々にご参加いただきました。参加された方々からは「息子が小さい時に来て以来2回目です。成長した息子と一緒に参加できて嬉しい」との声や、「ここなら乳児が泣いてしまっても気にすることがなく安心です。クラシックの生演奏を聞かせてあげられて幸せです」とのお声をいただいています。

ヤマト福祉財団 NEWS No.80
10月20日発行 2023 Autumn
公益財団法人ヤマト福祉財団
詳細情報・最新情報は https://www.yamato-fukushi.jp/
ご意見、お問い合わせは y.zaidan@yamatofukushizaidan.or.jp まで

Information of the Art

特別展 生誕270年 長沢芦雪

《虎図襖》重要文化財　和歌山 無量寺・串本応挙芦雪館(前期展示)

《西王母図》
個人蔵(前期展示)

《降雪狗児図》
公益財団法人阪急文化財団 逸翁美術館(後期展示)

長沢芦鳳《長沢芦雪像》(部分)
千葉市美術館(前期展示)

～奇想の旅、天才絵師の全貌～

斬新で自由奔放、ユニークさ光る！

奇抜な着想と大胆な構図。卓抜した画力を縦横無尽に発揮した作品は、ひと目で心を奪うものばかり。

伊藤若冲、曽我蕭白とともに「奇想の画家」の一人として注目を集める長沢芦雪(1754 ～ 1799)の生誕270年を記念し、その全貌を紹介する特別展が大阪中之島美術館で催されます。

江戸時代中期に活躍した芦雪は、丹波篠山の武家に生まれ、円山応挙のもとに入門。みるみる才能を発揮し、師ゆずりの高度な描写力を磨く一方で、応挙には見られない斬新なクローズアップなど、人を楽しませるサービス精神にあふれた型破りな画風が評判を呼びました。29歳にして、当時の京都文化人の紳士録とも言える『平安人物志』にも応挙らとともに名を連ねるほどでした。

圧巻の大作から、愛おしい作品の数々まで

4つの章立てで構成される本展では、芦雪の代表作から新たに見つかった作品まで、重要文化財4件を含む約100件で、奇想の天才絵師の初期から晩年までを振り返り、その魅力に迫ります。

33歳のときに京を離れて滞在した紀南で描いた、無量寺の「虎図襖」をはじめ、芦雪が得意とした障壁画(襖絵)8作品が、一つの展覧会に出品されるのは23年ぶり。じつに貴重な機会です。展示では、かわいらしい犬などの作品も並び、いきいきと描かれた動物たちの姿から、芦雪の慈しみ深い眼差しを感じとることができるでしょう。また、応挙や若冲、蕭白など、同時代の天才画家たちの作品も紹介し、18世紀京都画壇の息吹を伝えます。ヤマト運輸株式会社は本展作品の輸送・展示に協力しています。

前期・後期で大幅な展示替えがあります！

前期 10.7(SAT) ▶ 11.5(SUN)
後期 11.7(TUE) ▶ 12.3(SUN)
※一部の作品は上記以外にも展示替えを行います

DATA

開催期間 ▶ 2023年10月7日(土)～12月3日(日)
休 館 日 ▶ 月曜(ただし10/9は開館)、10/10(火)
開催会場 ▶ 大阪中之島美術館 4階展示室
アクセス ▶ 京阪 中之島線 渡辺橋駅(2番出口)より徒歩約5分
JR 大阪環状線 福島駅／東西線 新福島駅(2番出口)より徒歩約10分
Osaka Metro 四つ橋線 肥後橋駅(4番出口)より徒歩約10分
阪神 福島駅より徒歩約10分

開場時間 ▶ 10:00～17:00　※入館は閉館30分前まで
観 覧 料 ▶ (税 込)

一般	高大生	小中生
1,800円	1,100円	500円

※障がい者(障がい者1名につき介護者1名含む)は当日料金の半額(要証明)
※学生ならびに、各種お手帳をお持ちの方は、いずれも証明できるものをご提示ください
主 催 ▶ 大阪中之島美術館、MBSテレビ、毎日新聞社

協 賛 ▶ DNP大日本印刷
協 力 ▶ ヤマト運輸
問い合わせ先 ▶ 06-4301-7285 (大阪市総合コールセンター)
展覧会公式サイト ▶ https://nakka-art.jp/exhibition-post/rosetsu-2023/
巡回情報 ▶ 福岡会場：九州国立博物館
2024年2月6日(火)～3月31日(日)
※大阪会場と福岡会場では出品作品が一部異なります。

おかげさまで25周年　Happy2023　Christmas

みなさまとともに　これからも

1998年にスワンベーカリー銀座店が第1号店として
オープンしてから25年。
25周年のスペシャルケーキも用意しました。
今年もスワンのケーキでメリークリスマス!!

つたわるフォント
読みやすさを追求した書体

お申し込み 10月20日(金)～11月30日(木)
お届け期間 12月20日(水)～12月24日(日)
●障がい者施設からもご予約いただけます。

VEGETABLE OIL INK

お問い合わせは 株式会社スワン
0120-230-787
スワンベーカリー 検索

スワン25周年の
スペシャルケーキ
XAハッピー
アニヴェルセル25

美味しさ選べる
8種類のケーキ
XCハッピー
ア・ラ・カルト

チョコと苺のハーモニー
チョコドロップの食感も楽しい
XFハッピー
ショコラフレーズ
8大アレルゲン不使用